

京林大だより

No.46



絵：卒業生 熊走君

実践で学ぶキャップストーン研修

当校のキャップストーン研修は、2年生が2ヶ月間に2つの事業体で研修を受けるもので、林大では学ぶことが難しい実践技術や社会ルールなどを学びます。研修を受ける事業体は、基本的に学生自身が希望する業種や事業体を見つけ、事業体等と学生とのマッチング（面談）後、事業体の全面的な御協力により研修を実施することができます。今回は京都府内外の20の事業体（森林組合、林業事業体、製材所、NPO法人など）にお世話になり、無事研修を終えることができました。

毎年のことですが、研修後の学生はひと皮むけ、自信がついた顔つきになり林大に帰ってきます。卒業まで残り4ヶ月ほどですが、高性能林業機械操作士、森林公共政策士の資格取得や卒業研究に向けて有意義に学んでほしいと思います。

最後になりましたが、研修生を受け入れていただきました事業体のみなさま、本当にお世話になり、ありがとうございました。



測量は、スピードと正確さが大切



伐倒方向ヨシ！



納品に向け、大忙し



林大OBも今や指導者に

「第4回林大祭」 のお知らせ

林大生・教職員と、地域や林業関係者の皆様との懇親を深めることを目的に、今年も「林大祭」を開催します。

木を使ったゲームや木工教室、各種模擬店など、お子様にも楽しんでいただけるコーナーがたくさんありますので、ご家族おそろいで林業大学校にお越しください。

- ・日時：12月1日(日) 10時～16時
- ・場所：京都府立林業大学校
- ・内容：模擬店・木工教室・森のアトラクション
木工品の販売 など



【昨年の様子】
幹の輪切りで
オセロゲーム

今月の授業参観

『森林科学実習』

日本の森林資源を把握する方法のひとつに、「森林生態系多様性基礎調査」があります。地図上に4km四方の格子を描き、その交点となる場所に実際に行き、森林の様子を調べます。

1年生が同調査を模擬的に体験しました。斜面の上に半径5mの円を描き、すべての樹木と草本の名前、樹高、胸高直径を調べます。わからない木は学校に持ち帰り図鑑で調べます。特に指先ぐらいの大きさの「稚樹」は、面影はあるものの生長した樹木とは特徴が異なり、先生の経験と知識に頼る時があります。幹の生長を調べる「樹幹解析」と併せて1週間かけて学生5人と先生3人で、じっくりと森に入り込みました。



すべての樹木に番号を付けて……
木の名前覚えてしまいます。



校長室より

タケの開花、タケの復権を目指して

校長 只木良也

1年ほど前から、日本各地で「タケの開花」ニュースが・・・神奈川、高知、兵庫、宮崎、徳島・・・

タケは普通、毎年地下茎からのタケノコで繁殖することは、誰もが知っての通り。でも、花が咲いてタネが実り、それが落ちて、という当たり前の繁殖もあるのですが、タケ林に花が咲くのは、60～120年に一度といわれています。この時全林一斉に花が咲き、タネが実り、その後全林が枯死して、落ちたタネで更新するということを、昔から繰り返してきたのでした。

「最近」は1960年、全国的にタケ開花、全国マダケ林の1/3が枯れたと言いますが、それから約60年です。昔の人の寿命を越す長い周期の開花は、不吉の前兆とされていた歴史もありました。

さて、今タケは、里山を攻め上る悪役のイメージで語られることが多いと思います。地下茎

は傾斜地を上るのは苦手？いえいえ。地下茎で侵入し、それからタケノコ急速伸長。里山の先住樹木にしてみれば、気が付いたら頭の上にタケが葉を広げていて、それからは、日陰生活にといった状態。

タケの利用が激減した現在、タケの「里山侵攻」の悪行面だけがクローズアップされているのですが、タケは歴史的に里山の重要構成物で、人々の生活を支え、日本文化を育ててきた大切な存在でした。水筒、花活け、竹垣、竹箆、指物、茶道・華道の道具類、笛、尺八、竹刀、弓、傘、物干竿・・・

それが、最近ではプラスチックに取って代わられた物も多いのですが、色・光沢など、タケを模したプラスチックは多いと思いませんか。真似しなかったのが「腐る、燃える」こと、そのため今やプラスチック廃棄物の環境汚染は、世界的問題です。

ところで、世界竹の日(9月18日)という日があります。2009年、タイ国で制定され、今年は10周年。その日本版フォーラムが9月16日、京都でありました。タケの復権を目指すもので、題して「タケ・ササの開花—日本文化を継承するために」